

# 昭和五十八年度現代宗教研究所事業報告・活動日誌

## 1 第十六回中央教化研究会議（内容は本誌に掲載）

開催趣旨 七百遠忌報恩の成果を継承し、第十二回中

央教研七百遠忌教師結集大会及び中央講習

会七〇一年教師大会に引き続き、報恩行実

践、身延山教師大会として開催する。

(イ) 報恩の教化活動を受け継ぎ、二十世紀

後半から二十一世紀の社会に対応し、立

教開宗七五〇年をめざす教化の目標を考

える。(目標)

(ロ) 本宗寺院の現状と寺院運営のあり方を

中心に、信行の増進、信徒及び社会教化

の促進、教化組織の充実にむけての課題

と方法について話し合う。(事例交流)

(ハ) 当面する教化活動の実施内容と方策に

ついて検討し、めざすべき教化の方向を

出し合う。(方針)

期 日 九月二十九日(木)・三十日(金) 一泊二日

会 場 山梨県身延山久遠寺

宿 舎 身延山各坊

統一テーマ 宗徒総弘通をめざす宗門づくり

― 信仰をくらしの中に―

分散会テーマ①信徒教化の推進をめざして

②社会教化の充実をめざして

③法器養成と人材活用をめざして

④教化活動の交流と組織の確立をめざして

会議方式 1 記念講演

「日蓮教団史上における二、三の問題」

現代宗教研究所長 宮崎英修

2 基調報告

「地域社会の変動と寺院の現状」

現代宗教研究所主任 久住謙是

3 分散会テーマ発題

4 分散会討議(六分散会に分かれ討議)

2 地域教化研究会議開催

(イ) 第七回中四国教区教化研究会議

六月十・十一日 於山口県

分科会テーマ「遠忌後の寺門経営と青壮年育成について」「青壮年層の育成・教化を如何にすすめるか」

(ロ) 第五回九州教区教化研究会議

六月二十九日・三十日 於福岡市日蓮聖人銅像護持教会

持教会

総合テーマ「現代に生きる日蓮聖人」

会議テーマ「祖願に生きる宗門づくりをめざして

―寺院の現代的活用を語り合おう―

(ハ) 第七回北海道教区教化研究会議

八月二十二〜二十四日 於札幌市経王寺

統一テーマ「宗徒総弘通を目指す宗門づくり―信仰をくらしの中に」

分散会テーマ「社会教化の充実を目指して」「教化

活動の交流と組織化」

(ニ) 第一回北関東教化研究会議

十一月三日 於栃木県小山市妙建寺

テーマ「現代人の不安に答えるための教化の充実」

(ホ) 第一回山梨県教化研究会議

十一月五日 於中巨摩郡檜形町妙了寺

統一テーマ「山梨県日蓮宗寺院の現状と将来を考える」

分科会テーマ「布教活動のあり方を考える」「寺院の経営を考える」

(ヘ) 第九回京浜教区教化研究会議

十一月二十五日 於池上本門寺・朗峰会館

テーマ「生死一大事―特に死の教化について」

(ト) 第十三回近畿教区教化研究会議

二月二十七日 於大阪市雲雷寺

テーマ「宗徒総弘通の具体化をめざして」

(チ) 第一回南関東(千葉県)教化研究会議

二月二十九日 於勝浦市三日月ホテル本館

テーマ「寺院その管理運営」

(9) 第七回中部教区教化研究会議

三月二十七日 於愛知県岡崎市善立寺

統一テーマ「宗門人としての今後の教化の有り方」

分散テーマ「檀信徒教化―組織運営について」「地

域社会への教化対応―青少年教化について」

3 研究調査活動

(1) 研究例会・研究員会議の開催

日蓮主義、日蓮聖人の教説の現代的適用とその思想

化の研究として、田中智学を取りあげ、教化の組織

化を論じた『宗門之維新』をテキストにして研究

員分担にて研究発表し、教化組織について習学した。

また、昭和五十九年実施される宗勢調査アンケート

についての研究員間の意見交換と項目の検討を重ね

た。十月二十八日・二十九日第三十六回日蓮宗教学

研究発表大会が立正大学にて開催され、本研究所よ

り主任・所員四名が研究発表をした。

戦後の社会変動と宗門寺院の対応

―過疎問題を中心に―……………主任 久住謙是

宮沢賢治の日蓮聖人観……………主任 石川教張

『戒体即身成仏義』考……………所員 高橋謙祐

宗門教師の実状と後継者問題……………所員 望月兼雄

(2) 化学研究集会の開催

教化の内容と方策をめざして、第二回化学研究

集会を、五月二十七日宗務院にて開催した。その報

告発表は次の通りである。

特別報告

日蓮聖人の仏法における一般性

現宗研所長 宮崎英修

過疎寺院の実態……………久住謙是

社会教化の事例と方策……………渡辺靈法

信徒教化の内容とそのあり方……………鎌田行学

修法と教化について……………宮川了篤

総括討議

発表要旨は、「現代宗教研究」十八号（本誌）に掲載

した。

(3) 地方寺院の実態調査

三月二・三日、過疎指定地域である山梨県南巨摩

郡早川町における日蓮宗寺院及び布教活動について、

また六月二十九日より七月二日、後継者に悩む福井県寺院の現況実態を調査した。さらに十一月十・十一日には、千葉県長生郡長柄町並びに長生町における寺院十四ヶ寺の現況を調査した。なお、山梨・福井両県の調査は本誌（現代宗教研究十八号）に特集として報告した。千葉県寺院については、さらに調査をすすめ、その報告を本誌次号に掲載する予定である。

(4) 千葉県香取郡顕実寺松崎檀林を調査し、若干の資料を収集した。この調査では、幻の檀林として名のみ伝えられていた、養安寺檀林（不受不施派三檀林の一つ）の旧跡を発見した。この方面の檀林と寺院の調査を、今後さらにすすめたいと思う。

(5) 教化に関する資料を収集し、図書資料目録の作成発行にむけて保管分類した。寺院護持についての事例体験の原稿を依頼し、布教教化の資料として編集した。

(6) 資料センター機能の一還として各種資料より「近代日蓮宗年表五十七年」「寺院護持のあり方」を編集

作成し、「教化の友」の編集協力した。

(7) 各宗派教化関係研究所と交流を持ち、当面する教化についての問題や課題について意見や情報の交換を行なった。

(8) 近代日蓮宗史料・布教教化資料としての資料収集を行ない、現代における布教を探究するため、また近代日蓮宗における布教活動の明確化をめざし、そして教化の資料として『日蓮宗布教選書』を編纂した。

(9) 三月に、現宗研究講座並びに第三回教化学研究集会を近畿教区にて開催する予定である。

(10) 「現代宗教研究」へ特集・寺院実態調査報告Ⅰ〈第十八号を編集発行した。

(11) 顧問会議・嘱託会議・研究員会議・研究例会を開催した。

## 活動日誌

四月四日 遠忌紀要編集委員会に出席する。

四月二十一日 研究員会議を開く。

四月二十二日 現宗研顧問会議を開く。

五月二十日 研究例会を開く。

五月二十六・二十七日 現宗研嘱託会議を開く。

五月二十七日 第二回公開教化化学研究集会を開く、於宗務院。

六月九日 所長、目黒正覚寺に向向する。

六月十・十一日 第七回中四国教区教化研究会議、於山口県。

六月十四・十五日 北陸教区連絡会議に出席する。

六月十七日 研究例会を開く。

六月二十九・三十日 第五回九州教区教化研究会議、於福岡市。

市。

六月二十九〜七月二日 福井県寺院調査を行なう。

六月三十日 日蓮宗布教選書一〜七巻を編集、発行される。

七月一日 京浜教区教研運営委員会、於宗務院。

七月二十六日 研究例会。宗勢調査項目の検討打合せを開く。

八月二日 宗勢調査項目の検討打合せを開く。

八月二十二〜二十四日 第七回北海道教区教化研究会議、於札幌市経王寺。

札幌市経王寺。

八月二十六日 宗勢調査項目の検討打合せを開く。

九月二日 京浜教研運営委員会、於宗務院。

九月五日 所長、聖教護持財団に向向する。

九月八日 カリキュラム委員会に出席する。

九月九日 研究例会を開く。

九月二十九・三十日 第十六回中央教化研究会議身延山教師大会を開く、於身延山短期大学。

九月三十日 日蓮宗布教選書八〜二十巻を編集、発刊される。

十月五日 所長、京都妙覚寺へ出向する。

十月八日 群生編集委員会に出席する。

十月二十七日 全日本仏教会議に参加する。カリキュラム委員会に出席する。

十月二十八日・二十九日 第三十六回日蓮宗教学研究発表大会に参加発表する。

十月二十八日・二十九日 第三十六回日蓮宗教学研究発表大会に参加発表する。

十一月五日 第一回山梨県教化研究会議、於中巨摩郡妙了寺。

十一月六・七日 所長、三重県宗宝調査に参加する。

十月十・十一日 千葉県長生郡寺院・檀林調査を行なう。

十一月十四日 研究例会を開く。

十一月十八日 所長、墨田区法恩寺へ出向する。

十一月二十五日 第九回京浜教区教化研究会議、於朗峰会館。

十一月二十九・三十日 所長、愛媛県寺庭婦人研修会へ出向す

十一月二十九・三十日 所長、愛媛県寺庭婦人研修会へ出向す

る。

十二月一日 所長、静岡県西山本門寺宝蔵調査に参加する。

十二月三日 第一回北関東教化研究会議、於栃木県小山市妙建寺。

一月十九・二十五日 カリキュラム委員会に出席する。

二月九日 研究例会を開く。

二月二十二日 研究例会を開く。意識調査の打合せを開く。

二月二十七日 第十三回近畿教区教研会議、於大阪市雲雷寺。

二月二十九日 第一回南関東(千葉)教化研究会議、於勝浦市

三日月ホテル本館。

三月二十七日 第七回中部教区教化研究会議、於愛知県岡崎

市善立寺。

三月二十八日 研究講座・第三回教化化学研究集会開催、於大阪。